

観松斎時絵の鞍と鐙

(多田家所蔵・県指定文化財)

ともに金粉地に金高時絵で、笹葉に銀露玉をあらわした華麗な中に重厚さを備えた傑作。下絵は狩野美信、時絵は蜂須賀重喜に召し抱えられていた飯塚桃葉の作。



紙本水墨雲龍図

(多田家所蔵・県指定文化財)
墨絵の大幅で、狩野元信(1476~1559)の筆と伝えられる。蜂須賀家より拝領したという由緒からも時代的に古いとみられるもの、元信の筆として残るものがすくないので比較検討がむづかしい。一応伝元信筆としておくべきだろう。(縦121.5cm 横192cm)

胎蔵界曼陀羅図 (地蔵寺蔵・住友家・県指定文化財) 両界(金剛界・胎蔵界)曼陀羅図

それぞれ阿波藍で染めた縦横4m前後の絹本に金銀泥で描かれている、寛政10~11年(1798~99)に「高雄曼陀羅」を模写したもの



絹本着色桃花孔雀雄・西王母・牡丹孔雀雌図

(西野家所蔵・県指定文化財)

松浦春拳特有の手法を用いた緻密な作品で、天保13年(1842)の作。西王母と羽根を広げた孔雀を中心に桃と牡丹を描いた三幅対。西王母が青島に守られた故事より図化。



絹本着色釈迦三尊像

(立江寺・国指定重要文化財)

四国霊場第19番札所で八十八カ所の4つの関所の一つ立江寺の寺宝。鎌倉時代の名作。釈迦如来と白象に乗った普賢菩薩、獅子に乗った文殊菩薩がリアルに描かれた気品の高い作品。

大般若経巻第四八五

(西野家所蔵・国指定重要文化財)

奈良時代に薬師寺で書き写された大般若経600巻のうちの一巻。世にいう薬師寺教のひとつ。雄大な文字は弘法大師の書の師・魚養の筆と伝えられている。



袈裟禪文銅鐸

(西野家所蔵・県指定文化財)

田野町勢合から1個出土した銅鐸。扁平鈕式の六区画袈裟禪文銅鐸で、鈕の部分の一部欠損した状態で高さ39cmある。



紙本墨書仲文章残巻

(西野家所蔵・国指定重要文化財)

中国の故事を引用した公家の教養書で、序文・孝養編・礼法編・吏民編等九編から成る。奥書には正安2年(1300)6月8日書写とあり、現存する最古の写本。



太刀 銘「助則」

(平山家所蔵・国認定重要美術品)

鎌倉時代、長さ75.8cm

その他の県指定文化財

木造阿弥陀如来立像

(成願寺・県指定文化財)

像高179.2cm、素材の木目を巧みに生かした楠木の一本造り。丸味のある容姿、衣文線の重厚さから平安後期の作と思われる。

木造薬師如来座像

(現福寺・県指定文化財)

現福寺の本尊。弘法大師の作と伝えられる像高83cmの寄せ木造り、左右に12神将が配されている。面相は円満な慈悲相で鎌倉初期の作。



恩山寺ビランジュ

(恩山寺・県指定天然記念物)

恩山寺山門を入ったところにある、空海の手植えと伝えられる巨木(樹高18m)。樹周1~2mの三樹が合体して一株となり、東西19m、南北18mに及ぶ。樹姿の優れているものは珍しい。

櫛淵のフウ

(櫛淵八幡神社・県指定天然記念物)
櫛淵八幡神社境内にあるマンサク科の落葉喬木。大正の初め頃に敬義会のメンバーが植えたもので、成長が早く今では樹幹の周囲が2m近くに及んでいる。紅葉が美しい。



法華経

(桂林寺所蔵・県指定文化財)

黄染紙に木版刷りの卷子本、全部で8巻。文安4年(1447)足利義政より阿波細川第6代細川持常が賜ったもの。欄外に日時などの記入があり、義政が愛用していたものと思われる。

たたら踏み

(田浦町・県指定無形文化財)

右手に揃いの日傘を持ち、左手は横に伸ばしてバランスをとりながらたたらを踏むポーズで踊る。音頭取りの文句と拍子木とかけ声の三者の調和がおもしろい。



地藏寺玄関および書院

(県指定文化財・建造物)

足利氏ゆかりの平島公方の館を文化3年(1806)年に移築したもので、江戸中期から後期の特色をよく示す風格ある建物。本堂玄関の太い柱が特徴。



天王社稚児三番叟

(田野町・県指定無形文化財)

室町時代から伝承されてきたもので、猿楽の能「翁」を原型としたものといわれ、毎年10月22・23日の天王社の秋祭りの日に、神前の舞台で厳かに行われる。

弁慶の岩屋

(県指定史跡)

旗山の近くの丘陵の中腹に6世紀後半につくられた古墳で、巨大な自然石を使って作られた横穴式の石室があり、強力な弁慶でなければできないだろうと名付けられた。



金磯のアコウ

(金磯町・県指定天然記念物)

アコウは桑科に属する熱帯産の常緑喬木で、弁天山の北側に自生しているアコウは我が国における自然分布の北限を示すものとして学会で紹介されている貴重なもの。



Komatsushima has close connection with the Kinki region including Osaka, Kobe and Wakayama, and has been flourishing as an important center of transportation by land and sea since its early days. Therefore, a large number of important cultural properties, such as Buddhist architecture, artistic handicrafts, paintings and calligraphic works, Buddhist statues and traditional dances, have been left in the city.

文化財図鑑

古代より荘園が置かれ、海陸交通の要衝として栄えてきた小松島は、古くから大阪、神戸、和歌山など近畿圏との結びつきが強く、貴重な文化財が数多く残されている。